

令和3年度11月定例麻績村教育委員会 会議概要

開催日時 令和3年11月4日(火) 午前9時30分～

開催場所 麻績村地域交流センター 第3・4研修室

出席委員	職務代理	市ノ瀬淳一	委員	小山正文
	委員	宮下温子	委員	小松小百合
出席職員	麻績保育園長	塚原京子	麻績小学校長	佐々木英明
	筑北中学校長	臼井伸明	教育長	飯森 力
	教育次長	塚原優仁	主事補	龍頭詩織

1 開会

2 教育長挨拶

①教育長挨拶

3 報告事項

①教育長報告

・近況報告

②保育園長報告

・近況報告

③小学校長報告

・近況報告

④中学校長報告

・近況報告

質疑内容

小山委員: 中学の分の学校だよりの中で、令和3年度の学習状況調査結果のこの末尾のほうなのですが、「自分の思っていることを言葉で表すことが苦手」というところでこれは色々言う問題ではないと思うんですが、授業姿を拝見したりしてICT化で

タブレットを使ったりすると余計子ども同士や授業でも発言する機会が少なくなっているのかなという気がするのですが、我々の学生から若い頃は人との会話が苦手で会社が長続きしないとかいうことがあったりして、そういう傾向がここから続くのかなと、教育委員会だけの問題じゃないんですけど、ちょっとそれが個人的に心配なんですけれどどうなんですかね。

白井校長: 自分の経験から言うと、グループを作ってそういう話す機会を増やすことによって「そのグループにいるのが嫌だ」と言って教室から出てきちゃう子ども中にはいるので、これから自分の考えを積極的に伝えていくということは大事なことで求められていることであるんですけども、無理にそういうところを求めていくことはもしかしたらある子どもにとってはストレスが溜まるようなことかもしれないので、子ども一人ひとりの様子を見ながら対応していきたいと思います。でも自分の考えを発信していくということは大事なことで、当然それは教員がしっかりとそういう考えを子ども達に伝えていくという姿を見せていかないと、子ども達も真似できないかなと感じています。

小山委員: ちょっと余談になりますが、少し前のコロナ禍の中であったんですけども、会社でも電話に出られないというんですかね、というのは今は携帯電話だから電話が鳴ると誰から電話かかってきたのか分かるけれども、会社は不特定多数の人から電話が来るので、取り次いでもらって「小山さん、誰々さんから電話です」というのは良いんだけど、電話が鳴った時に「〇〇会社です」と言って電話に出るのはできないというのがあったりして、話すのが苦手だというのは、だんだん世の中の動きが変わってきますから会社の業務、折衝だとか色々なものがタブレットやなんかの方に発信したりして人と会っての折衝とかそういうもの減っていくかもしれないんですけどね、それがちょっと心配だなと思います。

白井校長: やっぱり何か話すときには対面で話をした方が表情であるとか、言葉の様子であるとかというのがやっぱり大事であると思うので、できるだけそういう日常的なコミュニケーションができるような学校の雰囲気とかそういうことは大事にしていきたいなと思います。

小山委員: ありがとうございます。

小松委員: 前回の資料で子ども達の「児童質問書」の中の学習時間。先程も触れていらっしやいましたが、麻績の子ども達がテレビゲームに使う時間というのがやっぱりすごく高いなということで、まあコロナ禍ということもあるとは思いますが、やはりすごい高いなというところが気になっています。麻績村の状況としても学校とか保育園から帰ってからの時間の使い方というのがどうしても外で遊んだりとか群れて遊ぶとかそういう場も機会も少ないんだとは思いますが、そういうこともあってゲームのほうが行きやすいのかなということもあるんですが、これは視力検査の結果もね、視力にも悪い影響がということにも繋がると思いますが、学校とか教育機関、保育園だけでなくやっぱり家庭での過ごし方とかそういうところもこれから本当に真剣に力を入れていかなきゃいけないなと感

じます。ゲームやっていると色々な機会が奪われたりとかしますし、視力への影響もありますし。ゲームが一概に悪いとも言えないのですが、ただ教育機関だけでやってもちょっといけないのかなって自分も含めて反省ですけども、そこら辺は家庭とか地域の人達にどうやって伝えていったら良いのかなというところも、私も「どうしたら良いんだろう」と思っているところなんですけど、そういうところを家庭をもっと巻き込んで真剣に捉えていただく機会があると良いと感じます。実際問題保育園はどうなんでしょうかね。

塚原園長: 保育園は以前よりというか、例えばお子さん待っている間に園庭で待っていますよね、そういった時に携帯電話を見るお母さん方は少なくなってきたように思います。降園時間が16時30分なのでですけども、大体16時15分~20分くらいの間にお子さんを引き渡します。「16時30分までは園庭で遊んでいい時間、でも30分になったら帰るよ」という風になっているんですが、今けやき公園ができてからは、保育園から片付けて帰るんですが、帰った後結構ごっそりけやき公園に移動しているようです。ちょっと日が短くなってきてしまうのでこれからはなんですけども、良い流れで皆で小さい子も大きい子も遊びに行っているようです。今のところはじゃないんですけども、メディアの危険性というのは発信はしているんですけども、そこまで気にならない状況です。先日視力検査も3歳児さん対象に行ったんですけど、今の所というか、1名だけ再検査というところでした。お家でどれくらい見ているというのは現状わからないんですけども、そんな状況ですね。

小松委員: 気が付くと小さい子がお母さんのスマホ使って、何やってるのかわからないんですけどこんなになってやっているから、すごいなと思って見る機会はよくありますか。

塚原園長: そういった姿は園の中ではあまりないですね。ただもうやっぱり車の後部座席でも見られるようにナビというかが付いているので、そういったところ付いているご家庭は多いですね。まあそこでルールを決めているかどうかというのはわからないです。

小松委員: ありがとうございます。

小山委員: 今近視の割合というのはどのくらいいるんですか。大雑把に半分くらいですか。

佐々木校長: かなり多いです。

小山委員: 弱視でなければ、0.1以上くらいだったら眼鏡で調整できるでしょうからそんなに問題ないのかなという気もしますけども、私も30年くらい眼鏡かけていてここ十数年眼鏡なしでいると本当に眼鏡あると楽だなと思うんですよ。目に良いことはあまりないですね、ゲームだったりタブレットだったり近くを見るという、流れでしかないんでしょうけども、できるだけそういう中で何か近視を予防できるものがあれば良いなと思います。

臼井校長: 学校では「ダメだ」と言っても、楽しいものはそれを越しているんで、この前の学校保健のところのご意見の中には「タブレットを使っていくんだけれども、あ

れはブルーライトカットされていますか」とかそういうようなことがありましたし、視力ということについては気にされているようなご意見がいくつかありました。これから必要になってくる可能性というより必要になってきて自分たちも揃えながらこうやって携帯電話、スマホいじったりすることがあるので。これはお金かかることなんですけれども、昔は山に行って小学生天神山登ったりとか、あそこら辺のところつるんで行ったりしたんですけれど、子どもがこうやって少なくなってきたりというだけじゃないんですけど、外で遊ぶということがなくて、でも外での遊び方を知らないというのも当然あるし、「外で遊べ」と言っても小学校で野球やる子もいないしサッカーやる子もいないしというところなので。ある保護者に言われたんですけれども、「ゲームをやらなくなるんじゃないで、例えばバスケのリングでもどこかに作ってくればそこで皆でたむろしてやる」とか、これはちょっと飛びすぎかもしれないですけど、スケートボードがちょっと流行っているの、役場の前でもやっている方がいらっしゃるんですけど、そういうそれが風紀に良いか悪いかというのはちょっとあれだけれども、スケボーみたいな皆で遊べるような場所みたいところ、ものがあるとそこに「ちょっと行くか」とかと言って、ゲートボール場とか今はあまり使っていないようだったらそういうあまりお金がないところに仕組み作ったりとかということは、どうなるかはわからないけど、ちょっと遊び場としてなるのかなと思いました。

小松委員:そういうのいいですね。

白井校長:いいですか。小松クリーニング、スポンサーで。

小松委員:スポンサー弱いなあ。

白井校長:でもご主人さんね、バイクやなんかああいう風にやったりこうやってしてる時、やっぱそういうのって好きなんだよね、皆でそういうものを介して。

小松委員:うちの場合も子ども達も本当にやっぱり周りが皆ゲームやっている中で、他に好きなものがあって他に熱中しちゃっているの、なので結局ゲームがよくわからないまま、そうすると人と話が息子なんか合わなくてあれだったけどでも好きなことを極めていって今すごい色々力になっているようなので、ゲーム以外に他に楽しいこととか興味のあることを極めていければ色々な事に強いかなと思います。なので違うことをやる場所がそこにあればというのがいいですね。

白井校長:部活もない子がそんなにこう熱中するという感じもしないし、子どものそういう面でもアナログでの発散の場というのがやっぱり中学校でも作れていないのか、ゲームのほうが魅力があるのかというのはちょっとなかなか言えないけど、でも自転車に乗ってどこかに遊びに行くとかいうことも「休みに行くぞ」という風になればそういうのもあるだろうし、野球やりたければ野球でキャッチボールやったりとか、どうやったらできるんですかね。

小松委員:真剣にそういうのは考えていきたいですね。前に公民館でお世話になった時に青木村さんで放課後子ども教室というか放課後、小学校のすぐ裏に川があって子ども達は皆そこへわーっと遊びに行くと火をおこしたりとか本当に自由に色々なことを自分たちで遊びを見つけて遊びこんでいくと。で、お子さんたちもすごく

生き生きとした目をしていて、だから村全体に保険掛けて対応しっかりしてそういう場が麻績にもあると良いなと思うんですけども、じゃあ実際にそういう場所があるかと言ったら法善寺さんのあそこら辺の裏山皆で行ってわーわーと気ままに遊べるような場所があれば良いのか、麻績川も危ないしなあとか。ちょっと本当に真剣に一時考えてはいたんですが、そういうのが実現していければ良いですよ。こんなにせつかく自然が身近に豊かにある所なので、でも色々課題はあるとは思いますが、そういう風になっていければ一番良いなと思います。

宮下委員:保護者によるんじゃないですかね。けやき公園も保育園児が流れて17時までの家庭は大体決まっています。そこに小学生が誰がいるかというのはメンバー決まっています。それで中学生も15時30分に終わる日なんかは中学生も来ている日もあったり、やっぱり親です。保護者がどういう風に時間を使わせるかじゃないけど、子どもの意見を聞きながらそこでまたコミュニケーションもあるもんね、子ども同士の。うちに居させれば楽という気持ちもあるかもしれないけど、保護者に安心するのが一番なのかな。結構居ますけどね、遊んでいる子も居ますし、小学校の庭で熱心に野球やっている家庭もあるし、増えれば良いなという気持ちはもちろんみんな持っているかなと思います。

市ノ瀬職務代理:コロナで休校だった頃ですかね、結構旧日向小学校のグラウンドあたりに中学生が何人か来て野球、と言っても人数少ないので野球にはならなかったですが来て集まってやっていたね。最近も天王辺りから、鞆背負って逆方向、こっち側へ向かって歩いている中学生なんかも居たりしますね。ということは天王辺りで友達同士集まって何かやっているのかもしれませんが、それで話変わっちゃうかもしれませんが、やはり学力・学習状況調査で生徒質問集の所ですね、「人が困っている時に進んで助けていますか」とかね、「いじめはどんな理由があっても…」とかここら辺は結果大変良いですよ。だからその道徳心というかそういう面での子ども達の意識って確かなのかなと思うんですが、中でやっぱり一番気になるのは「自尊心」。「自分に良い所はあるのか」という問いに答えられた人数は極端に低いですね。先程臼井先からも言われていましたが、子ども達の自己肯定感を高めるということが大事なのかなと、麻績の子は特にそういう所があるなと、これは昔からそういう傾向があると思うんですね。筑北と聖南と、大体そういうことになっている。逞しさはやっぱり聖南のほうがあったんですよ。だから自分に自信をもってどんなことでも平気で言うとかね、そういうような所があるけど麻績はちょっとそこら辺は大々的に弱いのかなということを感じるのですが、どうやったらそういう子を育てられるかという部分で、例えば自分の良い所を、やはり先程家庭という話がありましたが、「勉強ダメじゃないか」「できないじゃないか」とかそういった親の意識じゃなくて、子どもの良い所を褒めるとか伸ばすというような所に親の意識をやっぱり持って行くというか、そういう啓蒙を校長だよりとか学校だよりとかで出している訳ですが、そんな所を大いにまた取り上げていただければと思いました。それとあと一点、学力・学習状況調査で中学の数学って話先程出しましたが、どちらかというと2山

できているような感じですね、結果で見ると。そこら辺の改善方法と言いますか、少人数ではあるんだけどさらにその中で2山というかね、かなり理解度に差ができています、そこら辺中学から何かありますか、対策というか。

臼井校長:村の方で支援員というか、村費の先生いただいているので、そこに言って対応したりとかということはあるんですけども、でももしかしたら置き去りにされている子達かなと思います。小学校だけのせいじゃないと思うんですけども、やっぱりできる子は「うんうん」と言ってこうやって来るけど、たぶん2つ目のこぶになっている子達はそんなに暴れる訳でもなく、そのまま普通に何も言わないで「わかった?」と言えば皆が「うん」と言うから「うん」と言って、内容がわからないままこうやってそのまま中学校まで来ているとか、中学校でそういう風にやっているとかということがあるんじゃないかなと思うので、それぞれ子どもには個人差はあるとは思いますが丁寧に授業をやっている中で皆がこうやって、その中でも面白いとかわかったということが感じられるような授業ができれば良いかなと、小中連携だしもしかしたら保育園からかもしれないし色々なものに興味関心を持つという所をおうちの方をお願いしていくというのもあるだろうし、そういうところはちょっと感じます。教えている時点でわからないんですよ、サポート横に付いて「こうじゃないか」「ああじゃないか」と言っても、言っている時点でその話のところに辿り着かないというか、終わっても「わからない」で終わっちゃうというような子ども達も中にはいるんじゃないかなと思います。

佐々木校長:今の中3の子じゃないですか、たぶん少人数学習でやっていたんですよ。だから今の人数を半分に分けて、たぶん村費の講師を算数の少人数学習という立場でやっていたのがこの中3の子達じゃないかなと。逆に言えばそれだけ算数的な課題が大きかったのかな。昨年講師が欠員になってしまっていてやっていないのと、ただ人数を少なくすればそういう力が付いていくのかというのはちょっと違うんじゃないかなという所はあって、それよりも本当にこれからの学力観考えた時に郷土的な学び、それも含めてたぶん小中の交流型学習ということのを大事にするということはこの村の中でも一貫教育として入れているのかなと思っています。ただ丁寧に教えていけばいい、「丁寧に10人を見るほうが上手くしっかり見られるよね」という形で授業をやってもそれが本当の力になるかというそこは違うんだなというのは見えてきたところじゃないのかなと思っています。頭痛いね、数学科としては。

臼井校長:1年生で先月くらい、9月くらいから「授業分かりません」という子が2人出てきて、おうちの方と話をすると、取り出しという言い方が良いかわからないんですけども、ちょうど数学と国語はクロスで特別支援の学級でもやっているの、「そちらのほうに行ったらどうですか」と提案して、おうちの方が「少人数でお願いします」と言ってくるので、「じゃあどうしましょう」という形でそういう対応をしているんですけども、佐々木先生が話してくれたように、少人数にしてもわからないものはわからないという、いくら一対一でこうやって話をしても

わからないものはわからないんだけど、おうちの方の考えとすれば「少人数というか一対一でやればこの子はわかるんじゃないか」という神話というかそういうのがあって、やっぱりそのわからないならわからないなりにたぶん理由があると思うんですよね。もしかしたら検査を推奨するわけではないんですけども、WISCを取ったりすると短期の記憶が十分いかないとか、友達との関わりが上手くいかないとか、そういう傾向があるかもしれないんですけども、おうちの方は「この子は個別にすればできるから」というところでプレッシャーかけて、個別にしても点数上がりません、もっともっと個別にして家庭教師つけて何とかしましょうというその考え方があったりして、それは私は違うなと思いますけれどもそれに反抗はしないし、やっぱり丁寧におうちの方に説明していかないといけないなと思うんですけども、やっぱりそういう見方をすると逆に言うと子ども達も楽にできるかなということとはちょっと今の話と違うかわからないんですけども思いました。

教 育 長:色々勉強になることありがとうございます。ただ私も今感じていることはやはり家庭学習をどういう風にやっていくかということが非常に大切かなと思います。なかなか今保護者の方がやっぱり稼ぐ方に力を入れている家庭が非常に多いということで、その中で放課後児童クラブもそうですが半数以上が会員になってやっているということで、それで遅くお迎えに来るのが18時過ぎるとか18時30分とかいう家庭もあります。放課後児童クラブでも宿題なんかやっているんですけども、「親は必ず目を通してください」と言うけどなかなかそれができていない部分も多いということです。それとゲームやなんかがありますが、たぶん今の小学校から中学にかけてはそうですがゲームの最盛期にいた保護者が非常に多いなと思います。やはり見ている先程から出ているように親は暇があればスマホが手にあって色々見ているという状況、だから小さい子どもを見ても親のスマホを取って一生懸命扱っていますよね。非常にすごいなと感じてはいるんですけども、大変かなと考えています。それと子どもたちの遊びに関わる部分でも、おみっこ元気くらぶやっているんですが、ここ2年くらいもう高学年の子はほとんどいません。1年生、2年生が多いです。コロナの関係で信大の学生やなんか来なくなった部分も大きいんですが、今の子どもは自分の好きなことは選んで行くけど、おみっこ元気くらぶの計画の中で面白くないのは出ないという感覚のほうが、子ども達選択肢が大分強いんですね。中には親に内緒で〇付けてきて、来ないので「おかしいな」と思って電話してみると親は「え、そうなんですか？」なんていうことも時々見え隠れしていますので、ちょっと家庭での子どもたちとの話の時間が非常に少ないのかなという気もしています。どこの家庭もそうですが、テレビやゲームは今の時代だからしょうがないなという部分で了承はしていると思いますが、やはり子供と話す時間をしっかり取ってほしいなというところを今感じています。そうかと言ったって保育園でも朝もう8時頃は小さい子ども連れてきて夕方18時頃じゃないと迎えに来ないというたぶん未

満児の子もいらっしゃると思うんですが、昔の「三つ子の魂百まで」というのはどっかへ飛んで行っちゃって自分たちの生活稼ぐ方が忙しい部分も大分見えてきていて、ちょっと子どもにしては可哀相だなと思います。だから保育園にいる時間のほうがうちで親と一緒にいる時間よりも長いという、非常に面白い時代になってきちゃったのかなと感じています。それぞれの職業で事情がありますのであれなんですけど、ぜひ家庭学習、家庭で子どもが保護者と話し合える時間がほしいなと感じているところです。入学式や卒業式の自分や学校長の挨拶の中で必ずそれを言っているんですがなかなか上手く行かないなと感じています。そこら辺のところ今この時代に合った教育が非常に難しいかなと考えておりますので、またぜひこういう機会の中でもお話をいただいて良い策が出てくればなと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

4 協議事項

- ① 令和4年度筑北中学校入学生徒・麻績小学校入学児童予定数について
⇒承認
- ② 区域外就学について
⇒申請1件
教育委員会として本人に詳細説明

5 その他

- ① 各委員から
 - ・特になし
- ② 事務局から
 - ・12月定例村議会について
 - ・小中学校の工事について
 - ・旧第11通学区高等学校教育懇話会について

次回開催日程 12月2日(火) 午前9時30分～

6 閉会